

令和3年第4回氷川町議会定例会会議録（第2号）

令和3年9月10日

午前10時00分開議

於 議 場

1. 議事日程（第2日目）

日程第1 一般質問

2. 本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

3. 出席議員は次のとおりである。（12名）

1番 西尾正剛	2番 木下厚
3番 河口涼一	4番 清田一敏
5番 長尾憲二郎	6番 吉川義雄
7番 上田俊孝	8番 三浦賢治
9番 上田健一	10番 松田達之
11番 片山裕治	12番 米村洋

4. 欠席議員はなし。

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

事務局 長 平山早苗 書記 小田尊之

6. 説明のため出席した者の職氏名

町 長 藤本一臣	副町長 平逸郎
教育長 太田篤洋	総務課長 濤岡美智代
企画財政課長 増永光幸	税務課長 岩本博美
町民課長 尾村幸俊	福祉課長 山本昭義
農業振興課長 増住豪二	農地課長 前崎誠
建設下水道課長 星田達也	地域振興課長 村上孝治
会計管理者 橋本智明	学校教育課長 西田美子
生涯学習課長 荒平健二	

開議 午前10時00分

-----○-----

日程第1 一般質問

○議長（米村 洋君） おはようございます。これから本日の会議を開きます。

日程第1、一般質問を行います。

6番、吉川義雄君の発言を許します。

○6番（吉川義雄君） おはようございます。6番議員、吉川義雄です。

コロナ対策で質問時間が30分と短縮をされていますので、簡潔に質問をいたします。

最初に、学校のトイレについてお尋ねをいたします。町民の方から宮原小学校のトイレは問題があるという声をいただきました。早急に調査をと思い、学校に出向き、校長先生と会い、トイレを拝見させていただきました。

トイレで気づいたのは、入り口が男女兼用になっていること、床が湿式、ぬれていること、換気が不十分なこと、また、洋式便器が少ないなどが分かりました。

文科省が昨年、令和2年9月に、全国一斉に公立学校のトイレ調査を行いました。氷川町内の小中学校のトイレの現状と洋便器率はどうなっていますか。お尋ねをいたします。

学校のトイレ改修は急務であります。今回、予算が計上されました。改修計画が出されていますが、どのようになっていますか。お聞かせください。

災害時に学校は避難場所に指定をされます。避難してくる方は若い人もいますが、足腰の弱い高齢の方、車椅子の方、いろんな方がおられます。避難者へのアンケート調査でも、避難生活で困ったことの1位がトイレとなっています。誰でも使いやすいトイレが必要です。ユニバーサルデザインを追求する考えがありますか。お尋ねをいたします。

次に、新型コロナウイルス感染症防止対策について質問をいたします。コロナウイルスの感染が依然と続いています。県内でも9月3日現在で、1万3,000人を超えました。氷川町でも59名の感染が確認されていますが、8月から感染者が26名と、半数近くがこの1カ月であります。

そうしたことから、ワクチン接種を望む声が多くなっていると思います。本町ではワクチンの接種予約が一時中断されました。ワクチンの接種はできるのかという不安の声もあります。ワクチン接種の現状と今後の見通しをお聞かせください。

最近の感染の特徴は、若い人たちに多くなったことでもあります。氷川町でも10代、20代の人たちが増えているのではないかと思います。10代が急増している中で夏休みが終わり、小中学校の授業が始まりました。感染防止対策を徹底強化し

たところもあります。本町も十分されていると思いますが、本町の感染防止対策はどうなっていますか。お尋ねをいたします。

以上、2点質問いたします。簡潔な答弁をお願いいたします。

○議長（米村 洋君） 吉川義雄君の質問事項が2項目ありますので、1項目ずつ行います。

質問事項、公立学校のトイレ改修についてのアからウまでを一括して、答弁を願います。

学校教育課長、西田美子さん。

○学校教育課長（西田美子さん） それでは、質問事項、公立学校のトイレ改修について、質問項目が3項目ございますので、続けて御説明をさせていただきます。

まず、アについてですが、本町のトイレの現状と洋便器率がどうなっているかについてお答えをいたします。御質問のとおり、昨年度に文部科学省で公立小中学校施設におけるトイレの現状について取りまとめを行い、9月に公表をされております。この調査における本町の現状につきましては、小学校3校の集計で洋便器が48器、和便器が68器となっており、洋便器率は41.38パーセント、中学校1校で洋便器が21器、和便器が13器、洋便器率は61.76パーセント、合わせまして洋便器率は46パーセントとなっております。

続きまして、イの質問です。学校のトイレの改修計画はどうなっているかについて、お答えいたします。学校施設は児童生徒の学習・生活の場であり、安心・安全な教育環境の整備は重要であると考えております。議員の皆さま方には、これまでも学校施設に関し、耐震化や空調設備の設置など教育環境の整備において、御支援をいただいておりますことに感謝申し上げます。また、現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大への懸念、感染拡大防止へのさまざまな取り組みを行っている状況の中で、さらに衛生環境の整備は重要であると認識をしております。

その上で、このたびの補正予算におきまして、町立4校のトイレの改修費を計上、要望させていただいております。このたびの整備における方針といたしましては、老朽化に伴う衛生環境の整備と便器の洋式化を行うもので、各箇所にとりましては、和便器を1器、ほかを洋便器に取り替えるものです。

洋式化については、各家庭における洋式ウォシュレットトイレの普及状況、またバリアフリー化、防災機能強化、避難所としての施設整備の観点からも推進していくべきと考えておりますが、駅や高速道路のトイレなど公共施設において、和便器の使用が一定程度あることや、衛生面から便器に触れる洋式を好まない児童・生徒も一定程度あることから、和式トイレを残したものです。なお、今回の整備改修により、洋便器率は69パーセントとなる計画です。

続きまして、3番目の学校は災害時に避難所となるユニバーサルデザインの考えはあるかについて、お答えをいたします。学校も子どもの学習の場であるとともに公共施設であり、子どもたちだけでなく、地域の方々や保護者が安心して利用できる施設であると考えます。学校施設においては、熊本県教育長から今年1月にバリアフリー化の推進、公立小中学校のバリアフリー化の加速について通知が発出されております。

本町では、全ての学校施設においてスロープを設けるなどのバリアフリー化、多目的トイレの設置を行っておりますが、屋内運動場において1校でスロープ及び多目的トイレが未設置となっております。ユニバーサルデザインにつきましても、今後、公共施設等の総合管理計画と併せ、学校施設の整備についても取り組んでまいりたいと思います。

以上で、答弁を終わります。

○議長（米村 洋君） 吉川義雄君。

○6番（吉川義雄君） まず、最初に、教育委員会、教育長を先頭に、そして、また管理者である藤本町長の英断で、直ちに改修が提案されたこと、本当にありがたいと思います。感謝をしたいと思います。

私が学校に行ってみてきまして、いくつか先ほど問題を言いましたが、今日、議長のお許しを得て、皆さんのお手元に直接、訪ねて撮った写真をお配りさせていただきました。

ちょっと、その写真を見ていただいて、一番上の写真が宮原小学校の低学年用のトイレであります。左側が大便器、右側の窓側が小便器ということになります。一番奥が洋式トイレという話をいただきました。ここは男女兼用であります。先ほど言いましたように、床が湿っています。

それから、一番下がいわゆる職員室の前にありますトイレであります。奥が女性用、手前が男性用、換気扇は女性用トイレの上にある一つだけでした。ここは入り口が一緒で、通路を入れていかなければなりません。危惧されたのは、天井が上までないんですよという話がありました。

真ん中の写真が体育館の裏、横に立っている屋外に設置されているトイレであります。これは男子用であります。現状はこのようになっています。全て床が湿式タイル貼りであります。

私は子どもたちから、そして、保護者、卒業した保護者からトイレの話を聞きました。私の家は子どもたちの通学路に沿っていますので、いつもいるときに「用心して帰りなさいよ」と声をかけるんですが、中には必ず声かけていきます。感心だなと思いながら、その子たちも含めて何人かに聞いたんですが、「トイレはどう

ね」と聞いたら、やはり「臭い」って言うんですね。「汚い」って、「そうね」という話をしました。

また、卒業生に聞きました。やっぱり洋式トイレが少なかったので、トイレは順番を待っていたとか、そんな話も聞きました。

保護者の方に聞きました。写真を見せて聞いたわけですが、「自分たちのときと変わってないね」という話もされました。

私は、そういった点では改修がなかなか遅れていたというのは、校長からも話を聞いたんですが、いろんな最初からの設計上の問題もあったなというのを感じています。

私は、今回こういう予算化をされて決まって、本当によかったと思っていますが、一つだけお聞かせください。いわゆる湿式、乾式にしない、いわゆるドライにするかどうかという点の一つ、お聞かせいただきたいというふうに思います。

なぜ、それを言うかということ、私はいろんな本を読ませていただきました。全国で便器の改修については、学校の改修についてはやられています。その中に、ぬれていれば菌の繁殖が多くなると。だから、やはりドライにすべきなんだと、乾式にすべきなんだというのがありましたが、これは今回は予定されていますか。お聞かせください。

○議長（米村 洋君） 学校教育課長、西田美子さん。

○学校教育課長（西田美子さん） 御質問いただきまして、ありがとうございます。

写真をお配りいただきましたとおり、まず、今回の職員トイレについての詳しい御説明をさせていただきたいと思います。先ほど申しました、バリアフリー化の推進ということもございましたので、職員トイレにつきましては、まず、段差をなくす床の改修も行うことと計画をしております。その中で床の改修を行います関係で、ドライ式にするという計画を立てております。

児童用のトイレにつきましては、箇所数が多いこともございますので、急急には対応が難しいということで、今後、当然ですね、取り組んでいきたいと思っておりますので、計画的に進めてまいりたいと思います。

以上です。

○議長（米村 洋君） 吉川義雄君。

○6番（吉川義雄君） 職員、それから、来校してくる方々の分についてはドライに取り組むということで、あと、児童は数が多いとかいろいろあるから、財政の問題もあると思います。今、課長の答弁は前向きだったと思いますので、ぜひ、今後できるだけ早い段階に、そういった方向になるように期待をしたいと思います。

最後にもう一つだけ、私がユニバーサルデザインについて聞いたのは、質問した

とおり、災害時の対策なんですね。これはどちらかというところ、教育委員会というよりも町としてどうするかということだと思いますが、一応、答弁に町長宛に書いていましたので、町長、誰でも使えるトイレ、このユニバーサルデザインについての考え方だけ、お聞かせください。

○議長（米村 洋君） 町長、藤本一臣君。

○町長（藤本一臣君） 施設のユニバーサルデザイン化につきましては、これは以前から少しずつでも進めているところでありますし、今後も、それを目指していかねばならないと思っております。あとは、どこを優先にやっていくのかということもありますし、役場あるいは文化センターにしましても、まだ洋式化は全て進んでない状況、御承知のとおりでございます。やはりその辺りは優先順位をつけてやっていかねばならない。

先ほど、学校のトイレのドライ化の話もありました。あとは子どもたちが、そこで管理をしていかななくてはなりません。掃除当番、その他も当然それも情操教育の一つであろうと思っておりますし、そういった中で、こういった在り方が一番いいのかというのは、また教育委員会のほうでしっかり検討していただいて、方針を決めていただければなというふうに思っております。

いずれにいたしましても、ユニバーサルデザイン化につきましては、今後もしっかりと進めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（米村 洋君） 吉川義雄君。

○6番（吉川義雄君） 課長の答弁でも、今、町長の答弁でも、ユニバーサルデザインについて、今後、公共施設の管理計画と併せて整備に取り組んでいかれることと、私は思っています。

学校は子どもたちが主役であります。子どもたちの意見も大いに取り入れて、今回、整備を進められると思います。ぜひともトイレが楽しい場といたら変ですが、苦にならないように、ぜひ積極的に、整備を今後進めていかれることを期待して、この質問を終わりたいと思います。

次、お願いいたします。

○議長（米村 洋君） 次に、質問事項、新型コロナウイルス感染防止対策のア、イについて、一括答弁を求めます。

町民課長、尾村幸俊君。

○町民課長（尾村幸俊君） 2項目のアにつきまして、町民課よりお答えいたします。

新型コロナウイルス感染症、収束の切り札とされているワクチン接種につきまして、氷川町の接種率を申し上げますと、9月5日現在、12歳以上の方の接種率が1回目74.6パーセント、2回目65.3パーセントとなっており、65歳以上の

方につきましては、1回目88.6%、2回目86.5パーセントとなっており、国内の接種率に比べ、12歳以上では約15パーセント高く、65歳以上では同じくらいの率となっております。

今月1箱、約580人分、2回分のワクチンが約1カ月ぶりに配分されましたので、今月上旬に予定されておりました日程に、その分を増やしたところです。

2週間おきに要望調査があり、毎回、数箱ずつ要望しておりますが、配分が要望どおりにない状態であります。あと2箱ほどの配分を受けますと、町民の90パーセント前後の方が接種を終えられると予測しております。

国のワクチン接種のスケジュールでは、希望する全ての対象者への接種を本年の10月から11月にかけて終わることを目指すとされています。10月以降、ファイザー製が国に2,000万回分ほどの量が入ってきますが、国は県へ調整し、県は町に調整しながら配分されます。早く町民の皆さまに接種していただきたいのですが、このような状況でありますので、県へ配分の相談やワクチンの配分状況を考慮し、皆さまへの情報を早く行い、接種の御案内をさせていただきたいと思っております。

以上を答弁いたします。

○議長（米村 洋君） 学校教育課長、西田美子さん。

○学校教育課長（西田美子さん） 続きまして、イの質問についてお答えをいたします。

質問は感染者で10歳未満、10代が急増している。夏休みが終わり、小中学校の授業が始まったが、感染防止はどうなっているかという御質問でございました。

お答えいたします。全国の感染者数が累計で約153万人、熊本県内で約1万3,000人、1週当たりの感染者数が3週連続で1,000人を超えるとの報告がなされております。

本町では、これまで59名の陽性者があっており、その推移としては、昨年11月から今年の4月までの約半年間で17人、うち10代以下は2人、今年5月の1カ月で16人の陽性者があり、うち10代以下が3人、8月の1カ月で23人の陽性者、うち10代以下が7人となっており、感染の拡大には至っておりませんが、若い世代の陽性者は増えているというのが現状であります。

熊本県では独自の「熊本まん延防止宣言」の発令、「まん延防止重点措置」の熊本県への適用などにより、感染拡大防止のための対策の徹底強化の要請がなされ、本町でも対策本部を設置し、感染拡大防止に取り組んでおります。

さらに教育委員会といたしましては、学校における感染防止の取り組みとして、手洗いや検温、マスク着用の徹底、学校施設の消毒、給食における衛生面の確保、また感染拡大の状況に応じた行事の延期や見直しなどを行いながら、感染防止に取り組んでおり、これまで学校内での感染はあっておりません。

しかしながら、感染の拡大は身近なものであり、先月の夏季休業明けの始業については、取り組みの強化が必要であると感じ、学校施設の消毒作業の拡大、フッ化物洗口・歯磨きの当面の中止、不織布マスクの推奨など、さらなる対策を保護者にも協力をいただきながら進めているところです。

また、臨時休業になった場合でも、学びの保障ができるように、オンラインを活用した学習を日頃から進めております。各学校の取り組みだけでなく、本町5校が一斉にオンラインでの学習を行い、接続状況の確認をするなど、取り組みの改善を行いながら進めております。

以上で、答弁を終わります。

○議長（米村 洋君） 吉川義雄君。

○6番（吉川義雄君） 最初の質問ですけど、実は今日の新聞に、64歳以下の新型コロナウイルスワクチンの接種率というのが載ってまして、それを見たら、8月末現在、2回目40パーセント台の中に氷川町が入っていました。先ほどの数字と、どうなのかなというのとは一つあるんですが、一生懸命、本町は取り組んできて、そして進んでいるから、ワクチンの配分がどうも遅いんだという話もちょっと聞きました。

私は、やはり本町でも感染が増えてきたわけですが、私が町のホームページですと調べて、その数字でいきますと、8月が23名、9月が3名、合わせて26名という数字があるわけですね。わずか1カ月で、ほぼ一年分の数と匹敵するものがありました。私はそういうことで、かなり気にして防災行政無線もよく聞いているわけですが、やはりこの中で調べていくと、高齢者65歳以上の感染者というのは出てないんですね。やはり一定のワクチンの効果があったんじゃないかなというふうにも思っています。

そういう点では、先ほどのお話でいくと、あと2箱配分されると、町の集計では約90パーセント弱の町民の方の接種ができるということでもありますので、ぜひ県に対しても強く要求をしていただきたいと思います。

実は、ある町民の方から、感染が多くなったということで、私も最初は順番が来たら行こうかなと思ったけど、早く打ちたいということがあって、電話したらネットが、予約がもう終わっていた。どうしたらいいでしょうかという電話があって、担当課に電話しましたが、課長の適切なアドバイスで、その人は次の日にうまく予約が取れたんですね。私は本当によかったなと思います。そういう点で、担当課も頑張っておられます。ぜひ県にも、強く強く要望してください。

一つだけ、お伺いします。実は、全国の感染者の中で、自宅療養で亡くなっている人がおられるわけですね。これも調べてみました。熊本県内では自宅療養者数が

9月2日現在で1,004人、自宅におられるということなんですよ。その時点での感染者数が2,000人というふうを書いてあったと思うんですが、宿泊が388人、1,000人おられるということは、当然うちの町内にもおられるかもしれないわけですね。そういう点で、私はそういった人たちの情報も町もしっかりつかんで、町から亡くなる人を出さないということで全力を挙げていただきたいと思います。

ちょっと時間ありませんので、学校の感染防止対策は課長にもいろいろお話を聞いて、本当によく頑張っておられるし、子どもたちもしっかりマスクをして登下校をしています。外はしなくてもいいという話もあったんですが、きちっとやっています。すごく徹底されているんだというふうに思います。

私は、学校でも、もし感染者が出た場合どうするかという文科省のマニュアルもできていると思いますので、それに沿ってやっていただきたい。国は、緊急事態宣言のところは小学校のコロナ検査強化を盛り込んだ基本方針というのを出しました。ぜひ、そういったのも利用できる分は大いに利用して、感染防止に全力を挙げていただきたいというふうに思います。

ちょっと時間ありませんので、最後に町長にお伺いをしたいと思います。実は、町長、次期選挙に立候補されます。事務所開きをされました。町長の事務所に、すばらしいスローガンが掲げてあります。私も常々言ってきたことではありますが、「命と暮らしを守るまちづくり」というふうに書いてありました。私は、行政の一番の仕事はこのことだと思うんですね。

だから、そういう点では、今、私たちも選挙があるわけですが、自分の選挙も大事ですが、コロナ感染防止に全力を挙げるとするのが一番だと思います。そういう点で、町長の決意をお聞かせください。

○議長（米村 洋君） 町長、藤本一臣君。

○町長（藤本一臣君） おっしゃるとおり、新型コロナウイルス感染症の収束を早く進めていかなければなりません。その切り札と言われているのがワクチン接種でありまして、先ほど課長が申し上げましたとおり、さまざま事情はありますけれども、今、一生懸命ですね、ワクチン接種を進めているところであります。

先ほどお話ありました、県にも強く要望したらどうかということですね、実は先々週、もう配分が来ないと分かった時点で、県のほうに強く申し入れをさせていただきました。私たちの町は接種率が進んでいると。国は、接種が進んでいるところに調整枠としてワクチンを配分するという見解を言われました。それでも調整枠が来ませんでした。どういうことかということをお願いをし、先週の火曜日の配分では、その調整枠で1箱をいただいたところでありまして、そのことで今、接種が

また進んでいるところであります。

今後も、大きく強い声を上げていきたいというふうに思っておりますし、私たちの町は、今回の臨時交付金を使わせていただきまして、各家庭の感染予防の機械・器具の補助、それから事業所の補助をいち早くさせていただきました。かなりの普及率が上がっておりまして、そういったことが感染予防にはつながってきたのかなというふうに思っておりますが、ここに来まして、かなり感染者数が増えてきておりますので、まさに今、緊急事態という思いで対応しているところでありますし、担当課にも、とにかくここを乗り切っていかなければならないということで、今、指示をしているところであります。

ワクチン接種を進めるとともに、日頃の感染予防につきましても、さらに住民の皆さん方にも、しっかり自分の身は自分で守るという気持ちを持っていただくように、啓発も進めていきたいなというふうに思っております。

一言、先ほどおっしゃいました、今回の私のスローガンに「命と暮らしを守るまち」を掲げました。まさに私たち政治家、いわゆる行政の一番の原点は、住民の皆さん方の「命と暮らしを守る」ことでもあります。そういった意味では、さまざまなですね、そのためにそれぞれの施策をしているわけでございまして、その強い気持ちを持って、これからも行政運営に当たってまいりたいというふうに思っております。ありがとうございます。

○議長（米村 洋君） 吉川義雄君。

○6番（吉川義雄君） 今、強い決意を聞かせていただきました。やはり、私は最後に言われたように、行政としては、そこにいる住民の命を守ることが大前提であります。

私は、人権問題とかいろいろありますが、情報もしっかり出していただいてやれるように、一人一人の人がもっと感染防止対策をやるんだという決意に至っていけるように、一つ、町としても指導・援助をいただきたいと思っております。

これで終わります。ありがとうございました。

○議長（米村 洋君） 以上で、吉川義雄君の一般質問を終わります。

本日の日程は全部終了しました。

本日は、これで散会します。

-----○-----

散会 午前10時32分